

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	卒業研究(Graduation Thesis)		授業コード	C109926
担当教員名	岡崎 覚万		科目ナンバリングコード	N41901
配当学年	4	開講期	通年	
必修・選択区分	必修	単位数	6	
履修上の注意または履修条件	卒業研究着手にはこれまでに取得した単位数の条件(下限値)があります。その条件を満たさない場合はこの授業を履修することはできません。			
受講心得	ほとんどの履修生がいよいよあと少しで社会に出て、社会に貢献することになります。そのために必要な能力を習得する最後の科目ですので、心して取り組んでください。			
教科書	適宜、テーマに合わせて指示します。			
参考文献及び指定図書				
関連科目	これまでの科目全て			

授業の目的	社会に貢献するためには、どんな仕事にも共通した仕事の取り組み方や姿勢があります。これを学んでもらいます。
授業の概要	研究を通して仕事の取り組み方、人との共同作業の仕方などを学びます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： 研究生同士の自己紹介、研究の候補テーマの説明をし、各自のテーマを決定します	
第2週： 研究テーマ毎に初期の情報収集をします	ネットによる情報収集だけでなく、図書館等も利用する
第3週： 研究テーマ毎に初期の情報収集をします	ネットによる情報収集だけでなく、図書館等も利用する
第4週： 収集した初期の情報から、目指す目標を設定し、計画を立てます。	ガントチャートの作成方法やスケジュール管理法を学ぶ
第5週： 計画に従って研究を進めます。適宜進捗を確認します。	常にスケジュールからの進捗を確認しつつ進める
第6週： 計画に従って研究を進めます。適宜進捗を確認します。	常にスケジュールからの進捗を確認しつつ進める
第7週： 計画に従って研究を進めます。適宜進捗を確認します。	常にスケジュールからの進捗を確認しつつ進める
第8週：	

計画に従って研究を進めます。適宜進捗を確認します。	常にスケジュールからの進捗を確認しつつ進める	
第9週： 計画に従って研究を進めます。適宜進捗を確認します。	常にスケジュールからの進捗を確認しつつ進める	
第10週： [中間報告] これまでの研究経過を報告します。	これまでの研究を整理する	
第11週： 必要に応じ計画の方向修正をします。	初期の目標と比べて無理のない計画に修正する	
第12週： 計画に従って研究を進めます。適宜進捗を確認します。	常にスケジュールからの進捗を確認しつつ進める	
第13週： 計画に従って研究を進めます。適宜進捗を確認します。	常にスケジュールからの進捗を確認しつつ進める	
第14週： 計画に従って研究を進めます。適宜進捗を確認します。	常にスケジュールからの進捗を確認しつつ進める	
第15週： 研究成果を論文としてまとめ、提出します	これまでの研究を整理し、第三者にわかりやすいように配慮してまとめる	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	自分で選んだ研究テーマなので、自主的に情報収集などを進める意欲を持つ
【知識・理解】	研究を進めるために科学的思考、論理的思考を使うことができる
【技能・表現・コミュニケーション】	研究のパートナーとうまくコミュニケーションをとり、研究を効率よく進めることができる
【思考・判断・創造】	実験等から得られた結果を用いて、新しい知見を見つけ出すことができる

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	

【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		10点	10点
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	20点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		20点	10点

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	提出された論文を以下の観点で絶対評価します。 1) 事前に提示した論文構成にのっとっているか 2) 文章表現も含め、研究内容をわかりやすく説明しているか 3) 研究内容が卒業研究として水準に達しているか
発表・その他 (無形成果)	研究の進捗報告を毎週行ってまいりますので、内容をわかりやすく伝えるよう努力しているかどうかを常にチェックしています。